賛助会員功労賞

日本色彩学会賛助会員功労賞を受賞して

Received the Award from the Color Science Association of Japan

大日精化工業㈱ 技術機構 CCM開発部 小林淳夫
Atsuo Kobayashi, CCM Department, Dainichiseika Color & Chemicals Mfg. Co., Ltd.

この度は弊社が日本色彩学会の賛助会員功労賞をいただくことになりました．心より感謝申し上げます．また，大変光栄に存じます．

弊社は1931年に色彩の総合メーカーとして創業し，日頃みなさんが目にする色彩に携わり続けている化学メーカーです．彩りの素である顔料合成に始まり，各種プラスチック用着色剤やインキ・コーティング剤，顔料分散体など“彩りたいモノ”に合わせた着色剤などの製品を展開しています．また機能性材料や樹脂合成の開発も行っております．

私の所属はコンピュータカラーマッチングシステム（CCM）の開発部門でコンピュータと分光光度計を使って色合わせを行うシステムの開発を手掛けています．弊社のCCM「カラコムシステム」™を多くのプラスチック成型会社や塗料会社，建材会社，プリント会社などで調色の場面において活用いただいております．

例えばデパートなどでは様々な色の商品が並んでいるのを目にすることでしょう．植物や石材のように人間が作り出した色ではないものも存在しますが，多くはいろんな素材別に「その色」を選んだデザイナーがいて，「その色」を調色技術者が色材のレシピを立てて具現化し，「その色」の製品を作るメーカーの現場の方々がいる，という前提があってはじめて豊かな色彩の世界が成り立っています．

モニターに使用される各画素用のカラーフィルタも例外ではありません．メーカーは製品の目的（色域を広げる，コストを下げる等）からRGB毎に厳密に色材の色が管理されています．CMYKの原色インキやトナーの色も同様です．

もう少し具体的な例を挙げます．住宅に使用されている壁の塗料は住宅メーカーのデザイナーが企画した色（色見本帳や塗装サンプルなど）を目標色として，建材メーカーが試行錯誤して色を合わせ，デザイナーからOKが出るまで調色とサンプル提出を繰り返します．

またその塗料は標準ロット色に対して色ブレが無いよう標準配合で仕込んで作成した色をチェックし，必要なら補正調色を行い規格内に収めた上で，建材メーカーは無事に製品として住宅メーカーに納入します．

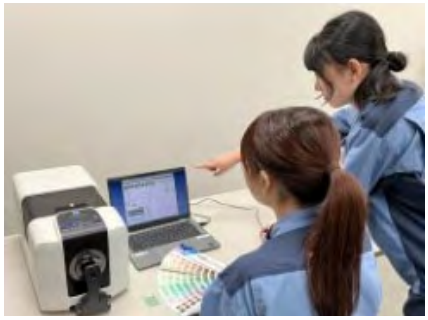
エコの観点から同種の別色の塗料を元にして，調色しリサイクル塗料として再利用される場面でもCCMが活用されております．

調色は目視調色であろうとCCMを道具として利用しようと，最後は人間の眼の評価なくしては合格に至ることはありません．調色現場においてCCMの活用率は100％ではなく，まだまだ目視調色の職場が多いのが事実です．しかしながら，弊社システムを活用いただいていることも事実なので，少しは世の中に貢献できているのかな，とも思っております．

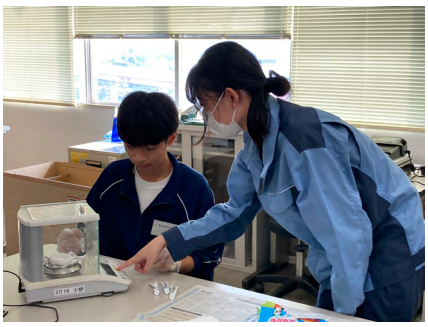
また，それは拡大解釈すると日本色彩学会にも微力ながら貢献できているのかもしれません．

「世の中の人工物の色すべて，誰かの調色によって出来ている」．色彩に携わるすべての方々に感謝し，今後の企業活動の励みにしていかねばならないと気が引き締まる思いであります．

日本色彩学会の益々の発展，また学会に携わる全ての方々のご健勝とご活躍を心から祈念し，結びの言葉と致します．誠にありがとうございました．



弊社のCCM『カラコムシステム』



近隣中学生の職業体験の様子